

A Cognitive Approach to English Prepositions

「英語の前置詞に対する認知的アプローチ」

英語教育専攻

英語科内容学領域

大島 悟

指導教官 小泉 直

論文要旨

「前置詞の *on* はどういう意味ですか？」と高校生に質問すると、「～の上に」という答えが返ってくることもある。確かに、*There is an apple on the table.* のような英文においてはこの訳語で捉えることができる。しかし、*She hung a picture on the wall.* のように垂直に立っている壁に対して *on* を「～の上に」と訳すことは適切ではない。このように、訳語では前置詞の意味を上手く捉えることができないという問題がある。

英語の前置詞は、元々空間における物と物の位置関係を示すものである。この研究では、それをイメージ図（以下イメージスキーマ (image schema) と呼ぶ）で表し、これを通して前置詞の意味を解釈することでこの問題を解決する。

本研究では、英語における前置詞のイメージ化を目標とする。前置詞の空間における位置関係を図に示し、これを通して前置詞の用法を捉える。この取り組みは、認知言語学における理論に基づいて行う。トラジェクターとランドマークという概念を用いてイメージスキーマを作成する。この研究で扱う前置詞は *in*, *on*, *at*, *from*, *to* の5つである。各前置詞により、イメージスキーマは異なる。*in* のイメージは、ものが容器の中に入っている様子である。また、*on* はものが面や線に接している様子を表し、*at* はものが点に接している様子を表す。そして、*from* はものが移動する際の起点を示し、*to* はその着点を示す。これらを図で示すことは、前置詞の用法を理解することに役立つと考えられる。また、前置詞の多くは、空間における位置関係ばかりでなく、時間やメタファーの表現においても使われる。つまり、具体的な場所における用法から、抽象的な時間やメタファーにおける用法に拡張して使われる。このような拡張された用法を理解する際にも、その元となる空間における用法を示すイメージスキーマが手がかりになる。

さらに、イメージスキーマの教材化を行い、英語の授業において前置詞のイメージを取り入れた指導を試みる。この指導では、単に訳語のみを与えるのではなく、イメージスキーマを手がかりにして前置詞の用法を捉えさせる。これによって、前置詞をより適切に理解することができると考えられる。その学習成果を基にイメージ図を用いた指導の有効性を検討する。イメージスキーマを用いた指導は、用いない指導よりも学習成果が良いという結果が期待される。